赤線地帯 (1956)

メディア 映画

ジャンル ドラマ

製作国 日本

色彩 B&W

時間 86分

初公開日 1956/03/18

【解説】

芝木好子の短編『洲崎の女』をもとに、成沢昌茂が脚色し溝口健二が監督した。溝口にとってはこれが最後の監督作品となった。撮影を宮川一夫、音楽を黛敏郎が担当。

赤線地帯にある特殊飲食店「夢の里」の主人は、国会に上程されている売春禁止法案が可決されたら売春婦はみな投獄されると、女たちを慌てさせる。より江はなじみ客と結婚するが、夫婦生活が破綻し舞い戻ってきた。一人息子のために働くゆめ子だったが、その息子から縁を切られ発狂してしまった。やすみは自分に貢いでくれた客に殺されかけた。ラジオが売春禁止法案の否決を伝えると、「夢の里」は再び客の呼び込みを始めた。そしてそこには、店を辞めたやすみに代わり、下働きだったしづ子の姿があった。

【クレジット】

監督	溝口健二	
製作	永田雅一 [製作]	
企画	市川久夫	
原作	芝木好子	
脚本	成沢昌茂	
撮影	宮川一夫	
美術	水谷浩	
衣裳	東郷嗣男	
編集	菅沼完二	
音響効果	花田勝次郎	
音楽	黛敏郎	Toshiro Mayuzumi
助監督	中村倍也 増村保造	
出演	京マチ子	ミッキー
	若尾文子	やすみ
	木暮実千代	ハナエ
	三益愛子	ゆめ子
	町田博子	より江
	川上康子	しづ子
	進藤英太郎	田谷倉造
	沢村貞子	その妻・田谷辰子
	浦辺粂子	おたね
	入江洋吉	ゆめ子の息子・修一
	小川虎之助	ミッキーの父

菅原謙二
多々良純
宮島健一
見明凡太郎
加東大介

栄公
ゆめ子の客
ハナ江の客
巡査・野々村
宮崎行雄